

## 科学哲学講義

森田邦久 (ちくま新書 964)

- 012 帰納的推論や abduction には論理的妥当性がない。
- 031 1. 日はまた昇らない? —自然法則の必然性について  
帰納を根拠づけるように見える自然界に規則性があるという「自然の一様性原理」も帰納法則でしかない。  
仮に規則性があってもそれは一つではない。 cf Glue paradox.
- 024 これまでの規則経験を素直に投射して使えるような性質に基づいて...  
[C] 素直とはどういうことか。 'Phylogenetically natural' □
- 025 規則と自然法則とは何が違うのか。  
[C] こういう問題は本質的では無い。定理の普通の命題の違いのようなものである。□
- 033 [C] 必然も真理もすべて経験事実以上ではない。□  
必然性をもった法則は帰納的には得られない。  
包含関係と a priori な推論, 3 段論法。論理規則は a priori に正しい命題を与えるか?  
[C] 「正しい」とはどういうことかまずこれに答えなくてはならない。ほんとうに apriori に正しいことがあるのか? 正しいということの定義を離れてあるのか? 数理論理学でさえ正しい推論は約束である。その根拠は? Is there any a priori truth? □
- 038 必然的に正しい命題とはすべての可能世界で正しい命題のことである。可能世界とは論理的に可能な世界のこと。  
[C] 可能世界の構成規則は? 論理的に可能ということはどこまで明確か? □
- 040 「ものの本質は言葉を離れて存在する」という前提は要る。[C] しかし「存在する」とはどのようなことかはっきりしない。
- 048 2. 原因なんてない? —因果の实在について  
D Hume:  
(a) c が e と時空的に連続している。  
(b) e は c のあとにすぐ起こる。  
(c) 類似の関係がいろいろある。  
このとき c は e の原因である。  
因果関係とは現象間の論理関係である。  
因果関係の向き。  
[C] 因果関係における向きは錯覚であってかまわない。  
目的論的解釈さえ可能なのであるから。しかし、「太鼓をたたくと音がする」この場合音の伝搬の方向性が重要である。遅延解先発解の問題である。

3. 原子なんてない？—見えない世界の实在について

[C] 「ある」という意味がはっきりしていないところに問題がある。□

100 「ない」とする側はやたらと直接的に観察できるかどうかということを中心するという点で特殊な真理観を科学に押しつけている。

じつは、科学全体には首尾一貫した真理基準はなくそのときそのときに応じて科学自身が選び出すものではないでしょうか？

4. 科学は正しくない？—科学とそうでないものの線引きについて

120 検証可能性基準

121 反証可能性基準

[C] Phylogenetic criterion matters; good tastes matter. These are actually the same thing. 指向性は生物学的に決まっている。

6. 科学ってなに？

168 科学とその他の知識体系を区別する基準には二つある：説明の仕方と対象になっている現象の存在が明確に証拠づけられているか。

198 説明とは説明したい現象をある一つのモデルへと統合することです。

[C] この統合の論理性と minimality 美意識が要求される。美意識とは何か？これも生物学的要求であろう。

202 自然が一様である根拠も現象論的法則が小数の枠組みの中へ統合されなければならない根拠も論理的にはないのです。

[C] ここで「論理的に」というのが曲者である。